

今回の災害で上水道や簡易水道が被災し、上陽町で634戸、黒木町で1,456戸、星野村で999戸、合計3,089戸が断水した。

懸命な復旧工事により、半数以上の世帯は7月22日までに復旧したが、上陽町北川内地区の一部は、橋の流失によつて断水が続き、解消されたのは7月27日となった。黒木町では黒木、木屋、四条野、椿原の4つの簡易水道施設が被害を受けた。その中でも土砂崩れ等で被害の大きかった椿原地区の復旧に時間を要し、断水の解消は8月9日になった。星野村では、十籠、棕谷、本星野、小野、仁田原の5つの簡易水道施設が被害を受けた。取水口が埋没し、排水管の切断・崩壊等の被害を受けた十籠・小野地区の復旧に時間を要することになり、断水が解消したのは8月10日となった。

この間の断水に対応するため、福岡県水道整備室を通じて給水支援の要請を行った結果、北九州市・福岡市・春日那珂川水道企業団・県南広域水道企業団・久留米市企業局から給水車と職員の派遣を受け給水支援活動を行った。上陽地区においては自衛隊の災害派遣により給水活動が実施された。また、市災害対策本部からペットボトルを高齢世帯や避難所に配布した。

水道復旧状況(市災害対策会議の報告より)

地区名	種別	被災時断水戸数	断水戸数の推移(戸)													
			7/18	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/30	8/2	8/6	8/9	8/10		
上陽	北川内	上水道	634	238	16	16	11	11	11	0	0	0	0	0	0	0
黒木	黒木	簡易水道	1,002	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	木屋	簡易水道	375	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	四条野	簡易水道	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	椿原	簡易水道	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	0	0		
星野	十籠	簡易水道	466	466	466	384	367	331	272	231	16	0	0	0	0	
	棕谷	簡易水道	58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	本星野	簡易水道	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	小野	簡易水道	242	242	242	242	242	242	242	242	242	6	6	0		
	仁田原	簡易水道	194	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合計			3,089	986	764	682	660	624	565	513	298	282	46	6	0	



▲星野村本星野地区簡易水道 取水口



▲星野村本星野地区簡易水道 配水管



▲星野村小野地区簡易水道配水管



▲星野村小野地区簡易水道 浄水場



▲星野村小野地区簡易水道仮浄水場(平成27年9月時点)



▲星野村小野地区簡易水道仮浄水場(平成24年12月時点)



◀星野村十籠地区簡易水道 下井手ポンプ所

48時間以上の断水箇所数及び戸数

	断水箇所	戸数(戸)	解消した日
上水道	山内	9	7月18日
	立花町仁合	6	7月17日
	上陽町全域	634	7月27日
簡易水道	黒木町木屋	375	7月26日
	黒木町四条野	39	7月21日
	黒木町椿原	40	8月9日
	星野村十籠	466	7月30日
	星野村棕谷	58	7月17日
	星野村本星野	39	7月22日
	星野村小野	242	8月10日
	星野村仁田原	194	7月17日

出典:八女市

給水支援

支援団体	台数	期間
県南広域水道企業団	1台	7/15~21
春日那珂川水道企業団	2台	7/16~8/8
久留米市	2台	7/16~8/8
北九州市	1台	7/16~17
大牟田市	1台	7/16~24
自衛隊	1台	7/17~21

出典:八女市

黒木町での給水支援の活動内容

日	活動内容
7月14日	21時から給水車(500L)2台、他車両2台、ポリタンク100個による給水(給水ポイント5カ所)、大牟田市水道局4名主導で実施
15日	大牟田市水道局5名、黒木出身職員実施(給水ポイント5カ所、1日3回)
16日	1回目は同体制で2回目以降は黒木出身職員で実施(給水ポイント4カ所、1日3回)
17日	ペットボトルの配布に切り換え、黒木出身職員、上下水道局職員で実施(給水ポイント4カ所、1日3回)
18日	500L及びポリタンクに切り換え(総務課から要請)
20日	2回目以降はペットボトルの配布に切り換え、黒木出身職員で実施
22日	給水ポイント3カ所、1日3回
24日	給水ポイント1カ所、1日3回

出典:八女市



▲現場指揮所(見崎中学校内)



▲上陽支所前で指揮本部からの指示内容を説明する様子



▲県内から駆けつけた応援隊車両



▲救助に向かう八女消防本部職員

平成24年7月14日の119番着信状況

区分	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
NTT119			1			1		63	19	6	13	5	4	1
携帯119			2				1	47	34	21	22	14	8	10
加入電話			5	2	2	2	2	9	7	2	2	2	9	1
合計			8	2	2	3	3	119	60	29	37	21	21	12
区分	時間	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	合計
NTT119		2	3		1	2	2		1	3				127
携帯119		4		1	3	2	2							171
加入電話		7	4	5	5	2	5	1		1	1	1		77
合計		13	7	6	9	6	9	1	1	4	1	1		375

出典:八女消防本部

八女消防本部は、雨が強くなった7月14日未明から災害警戒巡視活動を実施し、14日6時、八女消防本部の全職員を非常召集して対応にあたった。

消防本部の通信指令室には14日未明から119番通報が続いた。通常は1日に平均20件程度だが、この日は375件に上る救助要請があり、情報が錯綜して対応に追われた（P87参照）。

時間経過とともに各隊から報告される被害状況が大きくなり、消防本部の消防力を超える災害が予想された。そのため、「福岡県消防相互応援協定」によって各消防本部に応援を要請し、福岡県内17消防本部28隊121名が八女市に集結した。

また「福岡県広域航空消防応援協定（ヘリコプター）」に基づいて福岡市消防局へリを、「広域航空消防応援協定（ヘリコプター）」に基づいて宮崎県防災ヘリ、長崎県防災ヘリ、島根県防災ヘリ、京都市消防局へリを要請し、航空隊5機25名（うち島根県消防防災ヘリ、京都市消防局へリは天候不良のため途中帰投）の応援を受けた。

八女消防本部は各隊と連携を取りながら現場に入り、住民の救助活動や避難誘導等を行った（P91参照）。

八女消防本部の救助活動



▲立花町での救助活動



▲立花町での救助活動



▲長野での救助活動



▲長野での救助活動



▲上陽町 孤立地域の住民の避難支援



▲長野での救助活動



▲上陽町 孤立地域の住民の避難支援



▲上陽町 孤立地域の住民の避難支援



▲立花町での救助活動



▲立花町での救助活動

救助活動集計表

出勤場所	覚知時間	覚知方法	活動開始時間	活動終了時間	救助人員	活動隊	隊員数
八女市黒木町串毛地区込野	6:17	携帯119	6:20	7:00	2	八女消防署救助工作車	4
						八女東消防署ポンプ車	4
						八女東消防署林野工作車	3
						八女東消防署救急車	3
八女市長野	6:30	携帯119	7:00	13:00	21	八女消防署タンク車	4
						柳川市消防本部ポンプ車	5
						春日・大野城・那珂川消防本部緊急支援車	5
						福岡市消防局ヘリ	5
八女市星野村棕谷地区鹿里	6:31	携帯119	6:45	11:30	1	星野分署救急車	3
八女市山内	6:37	119	6:50	13:15	22	八女消防署タンク車	4
						八女消防署指揮車	2
						春日・大野城・那珂川消防本部緊急支援車	5
						福岡市消防局ヘリ	5
八女市黒木町串毛地区込野	6:50	加入電話	6:50	7:00	2	八女東消防署ポンプ車	4
八女市立花町北山地区山下	6:56	119	7:15	14:00	50	八女消防署化学車	5
						福岡市消防局タンク車	4
						福岡市消防局支援車	3
						筑後市消防本部ポンプ車	4
						福岡市消防局ヘリ	5
八女市黒木町笠原地区笹の原	7:09	119	7:30	14:22	1	福岡市消防局ヘリ	5
八女市黒木町串毛地区土窪	7:30	加入電話	7:30	7:40	11	八女東消防署ポンプ車	4
八女市黒木町串毛地区土窪	7:30	加入電話	7:30	7:40	11	八女東消防署林野工作車	3
						八女東消防署ポンプ車	4
八女市長野	7:30	携帯119	7:30	13:00	1	筑紫野太宰府消防本部緊急連絡車	5
八女市上陽町上横山地区杠葉	15:00	加入電話	15:24	15:47	1	宮崎県防災ヘリ	7
八女市星野村小野地区小原	16:30	119	17:06	17:18	1	福岡市消防局ヘリ	5
合計					136		

出典：八女消防本部



▲八女地区に集結した福岡県消防応援隊



▲星野村 防災ヘリで老人福祉施設入所者を搬送



▲山内 孤立した住民の救助



▲山内 孤立した住民の救助



▲星野村 防災ヘリで老人福祉施設入所者を搬送



▲山内 孤立した住民の救助



▲星野村 ヘリで救援物資を届ける



▲星野村 ヘリで救援物資を届ける



▲上陽町久木原地区 孤立した住民の救助



▲上陽町久木原地区 孤立した住民の救助



▲星野村 孤立した住民の救助

自衛隊災害救助概要

期日	派遣隊員(人)	災害活動概要
7/14	14	車両3両…上陽町へ104名輸送 ヘリ…看護師4名を耳納高原病院へ搬送 …重機用燃料200Lを輸送
7/15	30	車両2両(矢部村へ輸送)…弁当150食、茶2L×150本、非常食150個、毛布100枚を輸送 ヘリ…孤立地区(星野滝の脇49名、久木原地区21名)から搬送 ヘリ(小野地域交流センター、星野小学校、星の自然の家、お茶の里記念館、笠原小学校、えがおの森、久木原) …弁当1,350食、水2L×3,150本、茶2L×1,150本、 非常食650食、重機用燃料100Lを輸送、毛布573枚
7/16	23	車両2両…おにぎり800食、缶パン2,624個、缶詰2,208個を輸送
7/17	11	上陽町へ給水支援
7/18	18	上陽町へ給水支援
7/19	15	上陽町へ給水支援
7/20	15	上陽町へ給水支援
7/21	15	上陽町へ給水支援
計	141	

出典：陸上自衛隊久留米駐屯地第4高射特科大隊本部第3係『自衛隊災害救助概要』(平成24年8月)

自衛隊の救助活動

主要幹線道路の寸断、上水道施設の損壊、停電、電話の不通などライフラインが壊滅状態になり、また多くの孤立集落が発生するという、過去に経験したことのない大災害により、災害対策本部は福岡県知事に対して自衛隊の派遣要請を行った。

陸上自衛隊久留米駐屯地の隊員は14日、ヘリで看護師4名を耳納高原病院へ搬送し、重機用の燃料を輸送した。また車両で104名を搬送した。翌15日は孤立した星野村の住民をヘリで緊急輸送した。ヘリや車両を使って人命救助を行うと同時に、孤立集落へ非常食や弁当、飲み物、重機用の燃料も搬送した。また17日からは上陽地区の給水活動にもあたった。

自衛隊は、7月21日に撤収するまで8日間にわたって救助活動を行い、延べ141名が人命救助や孤立者の緊急輸送、食料・飲料水の等物資の搬送、給水活動に従事した。



▲土砂の撤去



▲土砂の撤去



▲土のうづくり



▲土砂の撤去

八女市内の消防団の活動概要(出役人員)

	八女 (上陽町を含む)	黒木	立花	矢部	星野	日計
7/13(金)	22					22
7/14(土)	428	367	220	33	79	1,127
7/15(日)	334	353	220	85	87	1,079
7/16(月)	101	204	200		60	565
7/17(火)	50	80	80		7	217
7/18(水)	42	40			7	89
7/19(木)	36				3	39
7/20(金)	39				5	44
7/21(土)	103				6	109
7/22(日)	166				5	171
7/23(月)					3	3
7/29(日)	63				5	63
8/5(日)					5	5
合計	1,384	1,044	720	118	267	3,533

出典:八女消防本部「平成24年7月九州北部豪雨災害誌」(平成25年3月)



▲孤立地域のもとへ向かう消防団



八女市内5つの消防団は、7月13日から各地で災害警戒や巡視を行ってきしたが、降雨の状況、各河川水位の上昇から、各団長は14日早朝、全団員へ活動を指示した。避難の呼びかけや避難誘導、水防活動、注意喚起など、活動は多岐に渡った。高齢者を自ら背負って避難させた団員もいた。14日は早朝から終日活動を行った。翌日からは家屋や生活道路の土砂や流木の除去、被災した家財道具の搬出や、二次災害防止のため、崩壊している斜面へブルーシート張りなども行った。

八女市内の消防団は延べ3,533人が活動を行い、市民から感謝の念が贈られた。また、その功績が認められ、内閣総理大臣をはじめ、国土交通大臣、消防庁長官から防災功労表彰が贈られた。



▲住宅の土砂除去



▲土のうづくり



▲住宅の土砂除去



▲後片付けの様子



▲二次災害防止のためのシート張り



▲二次災害防止のためのシート張り



▲流木の撤去



▲流木の撤去



▲二次災害防止のためのシート張り



▲二次災害防止のためのシート張り



▲流木の撤去



▲流木の撤去



▲土砂の撤去



▲流木の撤去



▲泥の排出



▲流木の撤去



▲流木の撤去

警察の活動

八女警察署は市内の治安維持と交通整理に努めた。

道路損壊によって各所に回路が設置されたため、交通案内は不可欠だった。停電によって信号機が動かなくなったため、交通整理にもあたった。

日が経つと市内で窃盗未遂事件が起きたため、パトロールを強化するとともに検問や職務質問の強化を図り、防犯チラシを作成して住民に注意喚起を行った。狭い道や回路となった山道など山間部のパトロールは、軽トラックに乗り替えて行った。

また、避難所を回って避難生活を送る市民の相談にも乗った。市民から寄せられた要望・意見は対策本部で報告し、関係機関と対策にあたった。



▲立花町



▲立花町



▲土砂の撤去



▲土砂の撤去



▲被災地視察(上陽町真名子地区)



▲被災地視察(上陽町久木原地区)



▲被災地視察(宮ヶ原地区)



▲被災地視察(黒木町笠原地区)



▲支所へ激励



▲小川県知事を案内する三田村市長



▲被災地視察(黒木町笠原地区)



▲警察署へ激励

市長被災地視察・要望活動(一部掲載)

7月18日	現地調査(上陽、山内、笠原)	古賀誠衆議院議員
7月20日	現地調査(上陽、山内、笠原)	社民党
7月21日	現地調査(上陽、山内、笠原)	岩本農林水産副大臣
	現地調査(上陽、山内、笠原)	中川防災担当大臣(政府調査団)
7月24日	陳情(県、九州地方整備局)	
8月 1日	現地調査	民主党・県政クラブ県議団
8月 2日	県知事要望	県市長会
8月 2日	意見交換会	民主党
8月13日	要望活動	
8月15日	県庁要望	
8月19日	視察	岩本農林水産副大臣
9月 2日	視察	連合福岡議員懇談会

災害対策本部長である三田村市長は、7月14日に災害発生状況把握のため、消防へから市内全域の被害状況の調査を実施するとともに、15日には村全体が孤立した星野村の状況把握のためへりを活用して現地に入り、せき止め湖の状況や市民の安否確認状況の把握に努めた。その後も被災した各地域の現場を訪問して実情を把握するとともに、避難所を巡回し、不慣れた生活を強いられている市民から要望や意見を聞き、疲れた様子の市民を励ました。

また、災害視察に赴かれた中川防災担当大臣、小川県知事、国会議員、県議会議員等に対し、災害の実情を説明するとともに、二日も早い復旧復興に向けた緊急要望書を提出するなど強力な支援を要請した。

市長被災地視察・要望活動



▲県知事の災害視察に対応する



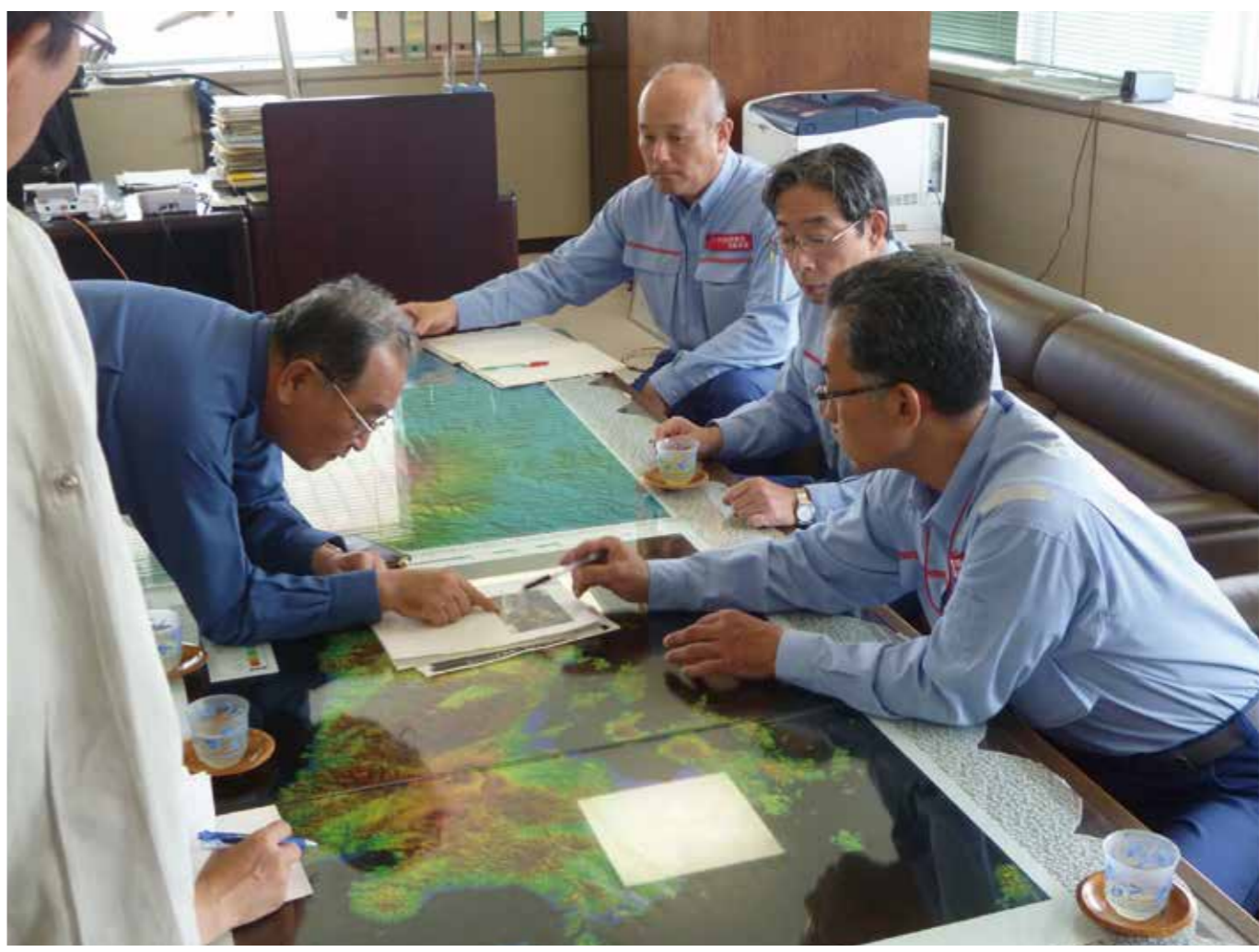
▲県知事に災害の現状を説明する



▲県への要望活動



▲福岡県議会議長訪問



▲九州地方整備局長訪問



▲JA本所で小川県知事らと協議



▲災害物資支援現場で激励する小川県知事